

社会と関わり続ける生徒を育てるためには？

—キャリア・パスポートを活用した実践の紹介—

生徒の様子

高校卒業後の進路に迷い、志望理由や面接回答の作成が進まないといった様子が見られた。その背景には、自己理解や社会に対する興味・関心の不足を感じていた。

仮説

生徒の自己有用感を高めることで、自己理解や社会参画意識の向上を図れるのではないかと。

～本研究での定義～

- ・自己有用感とは、協働体験や承認体験を通じて「自分が仲間の役に立った」と実感すること。
- ・社会参画意識とは、社会の一員としての自覚をもち、自分の良さを活かして社会に貢献しようとする意識



手だて

特別活動を通して、生徒の自己有用感を育てるために、記録用紙（キャリア・パスポート）で自分の行動を言語化する。記録用紙の配布・回収は Google Classroom にて行う。

① 行動目標を立てる

〈行事前〉に記入

1 [決める] 集団目標を達成するために、私ができる行動とは？

私は、

- 班（クラスより小さい集団）
- クラス（学年を含む）
- 学校（委員会活動など）
- 部活動
- 地域/社会（下宿・家庭を含む）
- その他（）

のひとりとして、

- 周囲と協力して行動する
- 自分の役割を果たす
- 計画を立てて行動する
- 周囲の状況を見ながら行動する
- 解決方法を考え実行する
- その他（）

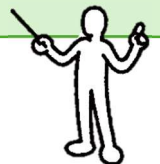
ことを意識し、

/ する。

例）

- ・私は、班のひとりとして、周囲と協力して行動することを意識し、舞台や展示に必要な道具を準備・片づけを自分から手伝う。
- ・私は、クラスのひとりとして、解決方法を考え実行することを意識し、リハーサルでトラブルが起きたら改善案を提案する。

生徒たちは、行事目標などを参考にして、「集団の中での役割」を意識した目標を立てます。



記録用紙と併用し、Google フォームでは仲間の良いところや、教員への悩みを収集する。

② 「集団」を意識して、特別活動に取り組む

③ 自分の行動を振り返る

3 [気づく] 行事中に、周囲から「認められた」と思えた行動は？

/ こと。

例）

- ・クラスの片付けを手伝ったときに「ありがとう」と言われて、発表の準備で忘れ物を取りに行ったら「助かった」と言ってもらったときに声を掛けてもらった、「元気出たよ」と言われた。仕事のきちんとやったら、「しっかりやってるね」と褒められた。困っている友達に声をかけた「ありがとう」と返してくれた。

生徒たちは、自分のどのような行動が「周囲の承認」に繋がるのかを振り返ります。

進路に関する相談フォーム

進路活動やゼミ・ボランティアの記入を通じて、相談したいことがある場合は、回答してください。

*アンケートの入力内容について、個別に返信することがあります。
*郵送の返信をする際、住所漏れを防止することがあります。

氏名

*希望しないこと

本文回答

連絡したい順番は？

結果

自己有用感の育成は、社会参画意識の向上と関連する可能性が示唆された。

特別活動を通じて得た自己有用感、進路選択の際にも、活かすことができると考える。

長期研修員の研究については、こちらの二次元コードから、ご覧いただけます。

